# 10 昔の伊丹の自然を知ろう

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1年 | | 4年 | |
| 2年 | | 5年 | |
| 3年 | 社会「むかしのくらし」 | 6年 | |

伊丹では，古くから米作りがさかんでした。そのため，1960年代前半までは農業用のため池がたくさんあり，川や池から水を引く小川や水路が，あみの目のように広がっていました。北部では，庭木栽培なども行なわれていました。

昔の伊丹には，こういった田んぼや畑，ため池などをすみ場所にする生き物がたくさんいました。

**1950年2月の昆陽池**　面積は約50ヘクタールあり，レンコンやジュンサイ・ヒシ・フナ・コイ・ウナギなどが収穫されていました。

**1965年ごろの瑞穂町付近**　市域の多くは田んぼでメダカやドジョウ，トノサマガエルなど田んぼにすむ生き物がたくさんいました。

**1968年ごろの鴻池（左；黒池，右；新池）**　稲かりが始まるころには，山から赤とんぼ（アキアカネ）の大群が飛来していました。

**1950年ごろ大鹿と東野の境にあった一本松**　あちこちに松林があり，秋にはスズムシやマツムシの鳴き声がよく聞かれていました。

**1968年ごろの南野**　おくに見える大木は南野神社のクスノキ。今も残っており，幹の周囲の長さは527cm，高さは23mに成長しています。

**1950年ごろの猪名川**　水量が豊かで泳ぐこともできました。今では見られなくなったチョウの一種オオウラギンヒョウモンも飛んでいました。

## 昔，たくさんいた水辺の鳥

昆陽池の埋め立てが始まる直前の1956年冬までは，ガンの仲間のヒシクイがたくさん冬ごししていました。

昆陽池の水面はヒシやハスでおおわれ，たくさんのサギやシギの仲間が，えさをとりにきていました。

昔の昆陽池には広大なヨシ原があり，夏には，オオヨシキリがたくさん巣をつくり，ひなを育てていました。

麦畑では，春になると，セグロセキレイやヒバリが巣をつくっていました。（写真は，ひなにえさをあたえるセグロセキレイ）

## 開発の始まり

**1959年の瑞ケ池**　このころから，市内のため池や田んぼが次々に埋め立てられ，水辺の生き物のすむ場所が少なくなってきました。

## 1970年ごろの伊丹

**伊丹市史第1巻口絵**　1970年ごろの伊丹市を，高いところから見下ろしたようにえがいた図です。町が広がってきている様子がわかります。



答え：メス

クイズ：昆陽池は，いつ，だれが造ったか知っているかな？（答えは次のページ）